１．北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 （北海道）	◎	商店街（代表者）	来客数の動き	・来街者が順調に回復しており、コロナ禍前並みになってきた。ただ、コロナ禍で生活習慣が変化したことで、特に高齢者の客足が鈍く、このまま回復しないのではないかと心配している。また、猛暑の影響で外出をためらう人もみられる。暑い日の中心市街地は閑散としており、残念な結果となっている。
	◎	一般小売店［酒］（経営者）	販売量の動き	・毎日の売上の変動が少なくなっている。月全体の売上も安定していることから、景気は良くなっている。
	◎	観光型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・ホテルの稼働状況は、人手不足の影響でいまだにフル稼働とはなっていないものの、客室単価が前年を上回るようになっている。コロナ禍前の2019年と比べても客室単価が上昇していることから、景気は良くなっている。
	◎	タクシー運転手	来客数の動き	・タクシー運賃について５月31日から約15％の値上げをしたことに加えて、７月後半に暑い日が多かったことで特に日中のタクシーの売上が伸びている。７月のタクシーの売上は、日勤で前年比プラス30％程度、夜勤で前年比プラス15％程度であった。ただ、乗務員不足の影響でタクシーの稼働率が15％程度落ち込んでいるため、会社の売上は前年比で３％程度の増加にとどまっており、コロナ禍前と比べると20％程度の減少となっている。
	◎	その他サービスの動向を把握できる者［フェリー］（従業員）	来客数の動き	・旅客、車両共に、輸送量が順調に伸びている。特に車両は乗用車の伸びが大きくなっている。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の分類が５類になり、祭りや商店街のイベントをコロナ禍前のように開催できるようになったことで、再開を待ち望んでいた多くの来街者でにぎわっている。人出はコロナ禍前よりも増えているほどである。各商店の来客数や売上も以前の状態に回復しつつある。
	○	商店街（代表者）	お客様の様子	・６月中旬以降、当区域における駐車場の利用状況などから、郊外客及び道内外からの観光客が増加していることがうかがえる。地元百貨店閉店の影響を受けて、全体的には来街者数が減少しているものの、買物袋を携行している歩行者が多く、各店の売上も増加している。ホテルや交通関連、土産店、夜型飲食店についても、７月上旬に農機具関連のイベントが開催されたことで売上を伸ばしている。
	○	一般小売店［土産］（経営者）	販売量の動き	・売上は2022年比179.3％、2021年比545.4％、2020年比723.3％となっている。コロナ禍前の2019年と比べても107.7％となっている。
	○	百貨店（売場主任）	販売量の動き	・シニア世代及びミドル世代におけるアパレル用品の動きが好調である。
	○	百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・客の購買単価が上昇している。商品単価が上昇していることに加えて、まとめ買いなども増えていることが要因となっている。
	○	百貨店（マネージャー）	販売量の動き	・来客数、客単価は３か月前とほぼ変わらないが、販売促進企画が奏功していることもあって、買上客数が引き続き大幅に増加している。販売量も買上客数に比例して増加しており、景気は良くなっている。
	○	スーパー（店長）	販売量の動き	・夏休みからお盆にかけての社会行事や地域行事がコロナ禍前と同様に開催されるようになったことで、前年まで需要が縮小していた水着、浴衣、トラベル商材、化粧品などの売上が好調に推移している。
	○	スーパー（店長）	単価の動き	・卵の集客効果は薄れてきたものの、来客数が引き続き前年を上回って推移している。また、これまで余り良くなかった客単価も前年を上回るようになってきた。
	○	スーパー（企画担当）	単価の動き	・値上げの影響で販売量が減少しているが、値上げに伴う増収が販売量の減少を補っている。

○	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数が前年と比べて増加しており、売上回復の要因となっている。また、当地では売上が天候に左右される店舗が多いが、現状、天候もプラス要因となっている。
○	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・イベントや学会などが活発に行われていることもあって人流が増加しており、この影響を受ける店舗は好調である。ただ、通勤客や通学客がメインの店舗は余り変わっていない。
○	衣料品専門店（エリア担当）	来客数の動き	・光熱費の引上げや新型コロナウイルスの感染拡大傾向がみられるものの、来客数が前年と比べて増加傾向にある。
○	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・半導体不足の影響が薄まっていることもあって、売上が徐々に持ち直している。ただ、今後については各種燃料などの値上げに伴って持ち直しの動きにブレーキが掛かることが懸念される。
○	高級レストラン（スタッフ）	お客様の様子	・当店も観光客の利用が増えており、売上もようやくコロナ禍前の50％を超えそうだ。ただ、原材料費や人件費、電気料金のことを考えると頭が痛い。昼食や夕食前の時間帯にデパ地下に行くと、外国人を中心に観光客らしき人でごった返しており、弁当やおかずを購入している姿がみられることから、当店でも観光客への周知を検討したい。求人面では小規模飲食店の求人数が急増していることから、当店もそろそろ人材の補充を考えていきたい。観光地のレストランではコロナ禍前の売上を超えているなど、活況を呈している。
○	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の影響が収まり、人流が増加していることから、景気はやや良くなっている。
○	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・週末の来客数が増えており、外国人観光客も増加傾向にある。観光シーズンに向けて好材料がみられるようになっている。
○	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・夏の繁忙期に入り宿泊客が増えている。ただ、個人客の動きが若干鈍い。
○	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・観光繁忙期を迎えて、個人客、団体客共に、旅行需要が拡大している。ただ、需要回復と物価高騰に伴ってビジネスホテルなどの宿泊料金が値上がりしており、観光業界の人手不足と併せて、今後への懸念材料となっている。
○	タクシー運転手	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症が５類に移行し、各種イベントが開催されるようになったことで人流が回復しており、タクシーの乗客数も増加に転じている。
○	タクシー運転手	来客数の動き	・夏場の観光シーズンという季節要因もあるが、コロナ禍が明けて人の動きが増えている。また、イベントなどが開催されていることもプラスである。こうした動きが続くことになれば、景気は更に良くなる。
○	タクシー運転手	来客数の動き	・全体的に人の動きが良くなっている。
○	観光名所（従業員）	来客数の動き	・当地において、業界団体や学術系の大会、スポーツイベントなどの開催が増加してきた。それに併せて当施設の利用客も増加していることから、地元経済にも効果が波及していることがうかがえる。混雑時にはタクシーを手配できないほどである。
○	美容室（経営者）	来客数の動き	・全体的に人の動きが活発になっており、当店の売上も増加している。ただ、年金生活者においては、年金支給額の増額が物価上昇に追い付いていないこともあって、来店周期が徐々に長くなっている。
○	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・今のところ、住宅着工数は伸びていないが、観光客が増えていることから、これからじわじわと効果が現れてくることになる。
□	一般小売店（経営者）	販売量の動き	・客単価は上昇しているものの、来客数が依然として少ないため、景気は変わらない。
□	スーパー（店長）	来客数の動き	・現在、来客数が前年比103％と前年を上回っているのに対して、売上は前年割れが続いている。買上点数は前年並みに近づいているが、客単価が低下しており、セール品のみ購入する客が以前にも増して多くみられるようになってきた。来客数が増加したとはいえ、物価高騰による節約志向が続いていることから、景気が上向きになっているとは言いにくい。

□	スーパー（従業員）	販売量の動き	・物価高の影響で販売量が減っている。ただ、商品価格が上昇していることで売上は良くみえる。
□	コンビニ（店長）	お客様の様子	・買物の様子をみると、値引きクーポンや無料券などを利用する買い方が以前よりも増えている。また、単価の高い商品の動きが鈍化している。
□	乗用車販売店（従業員）	単価の動き	・新型車の商品展開の動きが落ち着き、景気を刺激するような販売施策もないことから、現状維持の状態が続いている。
□	自動車備品販売店（店長）	お客様の様子	・長期的に状況が変わっていない。
□	その他専門店［ガソリンスタンド］（経営者）	販売量の動き	・石油製品価格が高止まりしており、客の節約志向が強いまま変わらない。
□	その他専門店［造花］（店長）	お客様の様子	・客単価が低めに抑えられているため、注文件数の割に粗利が少なくなっている。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・日中の利用者が順調に推移している一方で、夜間の利用者はそれほど変化がみられない。イベント関係での利用もそれほど変化がみられない。
□	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームを来訪する客の様子をみると、現在のインフレに対して慎重である。ただ、先行きについては明るさを感じているようである。
▲	一般小売店［土産］（経営者）	お客様の様子	・全国旅行支援の利用者が減っていることもあり、７月の動きは春先と比べると落ち着いている。これから夏休みを迎えるが、燃料油価格激変緩和対策事業などの公的支援の終了が近づいているため、余暇の過ごし方や消費動向がどのような動きになるのか注視したい。
▲	スーパー（役員）	お客様の様子	・お買い得なセールを行う日の売上が顕著に増加しており、客の節約志向が強まっていることがうかがえる。
▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・６月と比べると来客数の伸びが鈍化している。商品の値上げに伴って買い控えの動きが出てきていることがうかがえる。
▲	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・シャツなどの低単価商材は好調だが、先物の秋物スーツが全く動かない。例年であれば、この時期はオーダー商品が動き始める時期だが、今年は暑過ぎるため、全く動きがみられない。
▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・２～３か月前と比べると、販売台数が大きく落ち込んでいる。夏枯れという季節要因もあるが、人気車種がフルモデルチェンジを控えていることも影響している。ただ、２～３か月後には新型車が発売されるため、今後は回復が見込める。
▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・コロナ禍明けの行楽シーズンを迎えて、これまで開催を自粛していた各イベントなどが再開されていることもあって、客がイベントなどに出掛けることが増えている。そのため、当店への来場が少なく、販売量も減少している。
▲	住関連専門店（役員）	販売量の動き	・レジャー用品や夏物家電などの季節商材の動きが前年と比べて悪い。
▲	その他専門店［医薬品］（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症が５類に移行してから、軽医療業界は低迷している。新型コロナウイルス感染症に対する客の緊迫感が薄れたためとみられる。
▲	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・旅費が高騰していることで、見積りをみた際に料金が折り合わず旅行を断念する客が散見される。特にホテルの宿泊料金は高騰が著しく、例年の1.5倍から３倍となっている宿泊施設も多い。ビジネス客についても成約に結び付かない状況がみられる。
▲	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・コロナ禍明けの需要拡大傾向も落ち着き、３か月前と比較すると団体旅行の見積依頼や問合せが減少している。海外旅行も依然として完全回復には程遠い状況にある。
▲	タクシー運転手	販売量の動き	・コロナ禍が明け、各種イベントが再開されていることで乗客数が大幅に増えているが、これは一時的な需要であり、景気が上向いているとは言いにくい。

	▲	通信会社（企画担当）	来客数の動き	・通信サービスや端末を販売する専門店舗の来客数がコロナ禍前の水準にまで回復してこない。商業施設などでの出張販売における集客も上限となりつつあり、集客方法を含めて見直しを検討している。
	▲	美容室（経営者）	それ以外	・いろいろな物が毎月のように値上がりしており、価格改定を考えなければならない状況となっている。ただ、値上げを行えば客にも負担が掛かることになってしまう。
	×	スーパー（店長）	販売量の動き	・商品価格が上昇しているため、景気は悪くなっている。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・同じ飲食店でも、食事がメインのところや居酒屋は少しずつ景気が良くなっているようだが、スナックやラウンジは現状維持が精一杯である。景気が良くなっているということはなく、とても苦労している。
	×	通信会社（エリア担当）	それ以外	・現在の通信キャリアの方針は当社にとって厳しいものであり、景気は悪くなっている。
	×	通信会社（エリア担当）	それ以外	・営業成績に関係なく、通信キャリアからの代理店手数料が大幅に削減されている。
企業動向関連 （北海道）	◎	通信業（営業担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルス感染症の５類移行に伴う国内外観光客の増加、半導体製造工場の進出、北海道新幹線関連工事、都心部周辺の再開発事業の本格化など、明るい話題が続いており、それとともに実需も回復している。企業においても先々への新規投資や事業規模拡大を検討することが増えている。
	○	金融業（従業員）	取引先の様子	・物価上昇や賃上げなどに伴う企業収益の悪化を懸念する声は聞こえるものの、景気は緩やかに回復しているとする企業の声が、横ばいや悪化とする企業の声を上回ってきている。
	○	その他サービス業［建設機械レンタル］（総務担当）	受注量や販売量の動き	・６月までの微増傾向と比べて、増加幅がやや拡大している。インバウンドの動きやイベント開催が目に見えて活発になっていることから、景気はやや良くなっている。
	○	その他サービス業［建設機械リース］（営業担当）	受注量や販売量の動き	・建設需要が着実に伸びている。
	□	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・７月は引き続き端境期であるため、景気は変わらない。
	□	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・建設現場では作業員不足が問題となっている。物価、労務単価の上昇が続いていることも影響しているが、それ以上に作業員不足の影響が大きくなっている。金額の大小に関係なく発注しようとしても作業員がいないため、工事ができず、結果的に中止となる案件もみられる。今後は、設計対応していた案件が無駄になってしまうことも懸念される。
	□	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・技術職員の現場配置はフル稼動状態が続いている。天候が安定していることもあって、各現場が計画工期どおりに順調に進捗していることもプラスである。
	□	輸送業（従業員）	取引先の様子	・直近３か月の物量、売上が全く変わらない状況にある。受注価格が上昇していることで、売上目標こそ達成できているが、物量が伴ってこない。予算を数％下方修正しているといった声も聞こえてくるなど、景気が良くなる傾向にはない。
	□	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・人の動きは回復しつつあるが、物流の動きはまだ回復していない。鉄道貨物の輸送障害に伴う代替輸送はあるものの、ここ数か月、全国のトレーラー輸送は計画を５％下回る状況が続いている。また、生乳や紙パルプ、飲料の動きも相変わらず鈍い。猛暑による飲料関連の需要増加を期待したい。
	□	広告代理店（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・商品の正味量を削減する動きがみられる一方で、価格については値上げ又は据置きとなっていることから、企業の経営環境が厳しくなっていることがうかがえる。

	□	司法書士	取引先の様子	・観光関連や飲食業はコロナ禍が明けて回復傾向にあるが、住宅建築関係は建築資材の価格高騰もあって足踏み状態にある。当地では中心街の再開発などに伴ってビルなどの新築が活発であるが、一般的な住宅建築はまだ回復傾向にはない。今後についても、建築資材の価格が落ち着くまで時間が掛かるとみられることから、厳しい状況が続く。
	▲	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・７月の売上は３か月前と比べて減少している。前年と比べても少し落ち込んでいる。
	▲	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・客がモノ消費から、コト消費に移行しているため、厳しい状況にある。
	▲	司法書士	取引先の様子	・新型コロナウイルス感染症やウクライナ情勢を要因とした景気悪化に、円安の影響が加わることで、材料不足や資源価格の高騰、それを背景にした物価高が続いており、景気はやや悪くなっている。当地ではインバウンド需要が回復しているものの、物価高でその効果が相殺されている。ホテルなどの宿泊費が以前と比べて高騰していることもマイナスである。
	▲	その他非製造業［鋼材卸売］（従業員）	受注量や販売量の動き	・以前と比べると、売上が見込みよりもやや良くなっているが、最近は受注量が減ってきているため、安心できない状況にある。
	×	金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・前年の新築住宅着工棟数は前年比マイナス18％であったが、今年は前年から更に10％程度下がっている。前々年との比較では約３割の減少となっている。
雇用関連 （北海道）	◎	－	－	－
	○	＊	＊	＊
	□	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数が堅調に増加しており、企業における採用ニーズの強い状況が継続している。こちらからの提案人材への反応も素早く、面接希望数が３か月前と比べて３割ほど増えている。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・業種や業態を問わず、人材不足感がますます強まっている。労働力人口が減少していることから、求人への潜在的な需要は大きいとみられるものの、求人広告件数の増加に結び付いていない。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・人手不足ではあるが、物価高、コスト高の影響で採用を手控えたり、既存の人材で対応しようとする企業が多い。一方、観光産業は好調であるものの、人手不足でフル営業ができない状況が続いている。
	□	職業安定所（職員）	それ以外	・食料品や生活必需品、燃料の値上げ、光熱費の引上げなど、物価が上昇しているが、賃上げがそれに追い付いていない。高止まりしている原材料費を価格転嫁できない中小企業も多く、雇用環境は悪化している。
	□	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・６月の新規求職者数は前年比で6.6％の増加と２か月連続で増加したものの、有効求職者数は11か月連続で減少している。一方、新規求人数は前年比で16.6％の減少と５か月連続で減少したが、業況堅調な企業からの求人が引き続きみられている。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地における６月の有効求人倍率は0.88倍であり、３か月前との比較では0.08ポイント下回った。
	□	学校［大学］（就職担当）	求人数の動き	・2024年新卒者の採用活動はほぼ終了しているが、学生を確保できた企業と不十分な企業に二分されている。ただ、卒業年次の学生や企業採用担当者と接しているなかで、企業側の好況感も不況感もさほどうかがえない。また、学生の退学者数にも大きな変化はみられず、景気の動向がつかみにくい状況にある。
	▲	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・コロナ禍からの回復基調が鈍化している。外国人を含めて観光客は増えているが、エネルギーや資材、原材料などの価格高騰により、回復基調にブレーキが掛かっている。また、少子高齢化に伴って、企業が求める年代の人手不足感も強まっている。
	▲	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人の掲載申込件数が前年の８～９割にとどまっている。特に介護、建設業界の出し控えが顕著である。
	×	－	－	－